MEIJO Q&A

理工学部 環境創造工学科

Q 持続可能な社会のために リサイクルはどんな役割をしているの？

廃棄物の再資源化は、循環型社会を創出する有効な手段です。

人間の動脈静脈のように 生産と廃棄のバランスが大切です。

生産性を重視した20世紀を経て、21世紀は環境問題がクローズアップされ、「持続的発展が可能な経済社会の構築」が世界共通のテーマとなっています。新しいものを作れば、当然、廃棄物が発生します。これを人間の体に例えて、新しいモノづくりは「動脈産業」、廃棄物などの処理は「静脈産業」と呼ばれます。動脈と静脈がバランスよく循環していないと人間が生きていけないように、社会も健全な暮らしを保つことができません。すなわち、建造物や製品など新しいものが誕生する一方で、劣化し朽ちていくものもあり、「撤去・解体」「処理・再資源化」「最終処分」という静脈産業は私たちの生活になくてはならないものなのです。廃棄物問題は世界共通の重要課題です。

日本には、循環型社会を 実現してきた経験がある。

廃棄物問題の解決策として注目すべきは「再資源化（リサイクル）」です。日本ではリサイクル法で廃棄物の適正な扱いが義務化され、世界中で3R※が推進されていますが、実はかつて日本には循環型社会が成立していた時代がありました。それは江戸時代です。参勤交代で短期間に多くの武士などが集まった江戸では、生活必需品が必要となり、新製品の生産量が増加しました。ところが鎖国政策下の日本には資源が少なく、リサイクルに頼るしかなかったのです。私の研究室では、こうした過去事例に学びながら、建設副産物や電力・鉄鋼系工業副産物の再資源化や建物の長寿命化によって、廃棄物問題を解決し、環境負荷低減に貢献することをテーマに研究を進めています。

※3R＝リデュース・リユース・リサイクル

道正 泰弘 先生
Dosho Yasuhiro

環境リスクとなる廃棄物対策が完全でないと持続可能性は成立しないと考えています。リサイクル工学や建築材料・構造工学の観点から、環境に関連するさまざまな事象の相互関係のメカニズムと問題の原因を解明しようと日々研究しています。

＼コロナ禍になって／
始めたもの・ハマったもの

オンラインで国際会議に 参加しました。

昨年11月にベトナムで開催された国際会議に基調講演者として参加しました。自宅のパソコンから参加し、私の声とスライドが会場の大きなスクリーンに映し出され、ユーチューバーにでもなったような不思議な感覚になりました。

※海外からの参加者はオンライン参加